

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-124	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）		
<p>Patterns of alcohol use and related consequences in non-college-attending emerging adults.</p> <p>大学に進学していない成人における飲酒のパターンと救急医療での飲酒に関連する事象</p>		
執筆者		
Cleveland MJ, Mallett KA, White HR, Turrisi R, Favero S.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 Jan;74(1):84-93.		
キーワード		
2次教育、飲酒、アルコール依存、潜在クラス		
要 旨		
<p>目的：</p> <p>救急医療において2次教育に進学していない成人は、飲酒やアルコール依存に関連する長期にわたる問題に対して高リスクである。本研究の目的は大学に未進学成人における飲酒の潜在クラスを特定すること、およびクラス因子の相関性を検討することである。</p> <p>方法：</p> <p>Prerecruited Probability-based Web Panel から2次教育に進学していない18～22歳の救急受診した264人の成人をスクリーニング対象とした。潜在クラス分析を用いて、共通する飲酒パターンを特定した。集団変数および人口統計学的変数を潜在クラス分析モデルに加え、潜在クラス分析間の飲酒関連事象の割合を比較した。</p> <p>結果：</p> <p>4つの飲酒パターンを特定した：現在非飲酒者（34%）、週末のみの軽度飲酒者（38%）、週末のみの高度飲酒者（23%）、および毎日の飲酒者（5%）。クラス因子は若年での飲酒開始（14歳以下）、結婚状況、就職状況、および都会居住（5万人以上の都会）と関連していた。潜在クラス数は性別、法的飲酒年齢間で大きな差を認めなかったが、クラス内に占める割合は年齢により変化していた。週末のみの重度飲酒者においては、飲酒により病気や罪の意識を有すると報告している割合が多く、一方毎日の飲酒者においては、喧嘩、飲酒運転、欠勤の報告が多かった。</p> <p>結論：</p> <p>救急受診した大学生の対象者と同様に、大学に進学していない対象者の大部分は、稀または中等度の飲酒により定義される潜在クラスに属していた。それにもかかわらず、対象者の4分の1は重度の飲酒者であり、また少数ではあるが、毎日飲酒している対象者も含まれていた。重度飲酒者、毎日飲酒者は両者とも、飲酒関連事象のリスク増加と関連していた。</p>		